

平成27年度 第1回 河川整備計画検討委員会 議事要旨

日時：平成27年6月1日(月)14:00～16:30、場所：島根県民会館

出席者：別添出席者名簿のとおり、報道：2社 傍聴者：3名

報告事項

- ・斐伊川水系中流域河川整備計画の新規策定について（報告事項資料）
- ・松江堀川の水環境について（報告事項資料）

議 事

○静間川河川整備基本方針について

－別紙 会議次第（1）～（6）について（資料2～資料7）各々順に事務局より説明

質 疑

資料－2

- ・絶滅危惧種は他県と比べて島根県の特徴はどうか。

→（事務局）他県との比較については現時点では持ち合わせたものがない。

- ・鳥類調査について、鳥の目撃時期が調査時期に当たれば良いが漏れている、あるいは短時間調査で出てこない種もある。先の質疑に関連して、琵琶湖や和歌山に比べて全国的に多い種がある一方で関東が多い種もあり地域性での特色はある。

- ・観光からの立場で、島根県の特徴が出せるかの面で質問した。

→（事務局）基本方針については通常3か年で策定するもの。一方で迅速に策定する流れもあり今年度中の策定を目指し国とも協議している。その中でも最低限1年間の環境調査は必要となっている。途中段階の資料もあり、確認が全て出来ていない面もありご理解いただきたい。

- ・カワウについて。コロニーはどこにあるか。アユの産卵場所に影響がある。ヨシの刈り取りをしない地域の住民運動もあり関連を確認したい。

→（事務局）三瓶川合流点から下流側本川左岸側の竹林の部分に多く確認されている。この位置で数十羽程度を確認している。

資料－3

- ・検討からH25降雨を外した考え方、また、計画降雨の検討で、5mm/h以上の降雨の8割が6時間でカバーできているとあるが、それで良いとする考え方について説明して頂きたい。

→ (事務局) H25 降雨は支川で氾濫しているためモデルの妥当性検証からは外しているが、検討対象降雨である。 県管理河川では 1 時間毎の降雨をテレメーターで観測しているのはH10 からで、それ以降データの蓄積により検証精度があがっている。国とは異なり実測水位で流量を算出しているが、8 割程度の結果であれば妥当と考える。

資料— 4

・河道内の樹木伐採は通常は選定候補に残ると思うが、一時選定で外した理由は何か。

→ (事務局) 1/100 規模の洪水に対して水位低下が必要だが治水上の規模や効果が低いことから外している。

・引堤と掘削を組み合わせた事業費は出ているのか。

→ (事務局) あわせた資料には載せていないが引堤掘削それぞれの費用を掲載しておりこの 2 費用の間での事業費となる。

・ヤナギ林一部保存は良いが斐伊川は全体を考えて河口部中流部と場所を考えて手をかけている。また、斐伊川では住民から樹木が大きくなった場合の不安等で伐採されている例もあるようだ。ヤナギは成長すると支障になり、また上流から河口部に種も流れ着く。これら含めて全体に考えたほうが良いと考える。

→ (事務局) 基本方針素案の段階で、大きな守るべきことを文書で表現として盛り込んでいきたい。後年度必要になり河川整備計画を策定する際には具体的に示していきたい。

資料— 5

・アユの生息状況について。通常の流量でも生息に適した流量でないという解釈でよいか。

→ (事務局) 行った 1 回の観測結果ではかなり低水位という結果になっている。

・実際は現地調査で確認されるとよい。

資料— 6・7

(質疑なし)

議事全体を通した質疑

・数値や計算結果は妥当性を国等とチェックされるのか。

→ (事務局) 国交省本省と協議を重ねており特に解析モデルについてH2のダム群のある計画について流量を見直している。この点について重点的に国と協議をして委員会に諮

ったもの。ただし今後の協議状況により今回示した流量等が変わる可能性もある。正常流量についても今後国とも協議して関係資料を整え、委員会に示したい。

- ・ 1. 三瓶山は国立公園で訂正が必要。 2. アユの生息状況はNPOで6月に調査状況を更新するので反映して頂きたい。

→ (事務局) 基本方針に反映したい。

- ・ 1. 水面幅の確保とアユの生息について、この流速では住めないことだったが卵を産む深さもないということか。水深の確保・維持で良いのか。
- 2. また、「ふれあいの確保」で3項目の説明だったが地域の行事があるのかアンケート等で把握してはどうか。
- 3. 空気・水の浄化と生物の生息の関係はどうか。逆に害をおよぼす関係はあるのか。

→ (事務局) 1. 全国の一般値で流速を示している。4月に実施した1回の調査ではこの値を満たしていないが、流速が一般値を満たしていないからアユが産卵できないとは言い切っていない。水深を確保できるよう改修や維持の際に努めるものと考えている。

2. アンケートについては河川整備計画の策定時に地域の委員を含めた委員会での審議になりその際に検討したい。今回は補足する方法を考え表現に盛り込んでいきたい。

3. 素案段階までに検討したい。

- ・ 調査時の4月の流量が低いのは水田で水が少なくなっているもの。アユの産卵は10月から12月であり調査についてもアユの生活史を考えたほうが良い。

→ (事務局) 上流の堰の取水状況等について次回までに実態を調べたい。

- ・ 補足で、現在のアユの産卵位置が、水深、流量の条件がいいから産卵しているわけではなく、堰等があるためであることを留意して頂きたい。
- ・ 地域の資源として河川はかつて多様な魚類がおり、歴史的な営みや生活史として載せると後世にも良いと考えている。
- ・ (委員長総括) 本日の指摘を整理して今後の作業、次回委員会へとつなげて欲しい。